

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立倉敷中央高等学校
実践場面	地域に根ざした教育活動
実践日時（時期）	令和6年7月から令和7年1月
対象生徒（学年）	福祉科1・2年生
連携の形態	<input type="checkbox"/> 包括連携協定（ 商工会議所・商工会 ） <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 玉島信用金庫 本店・倉敷支店、アダージョ(株)（いづみ荘） （高梁川未来人材育成事業） ）
学びの分類	<input type="checkbox"/> 講演会講師・説明会 <input type="checkbox"/> 技術指導 <input type="checkbox"/> 企業訪問・インターンシップ <input checked="" type="checkbox"/> 商品開発・共同研究 <input type="checkbox"/> 最新技術・設備の見学 <input type="checkbox"/> その他

実践の内容

【現状】

福祉科は、地域福祉の第一線で活躍できる専門的職業人を育成したい。生徒には、地域や企業などと共に活動する経験を通して、社会の一員としての役割を理解させ、社会で起きている課題を解決する力を身につけさせたい。

しかし、県内で活躍する人材を多く輩出している一方で、毎年1年以内に離職する者がいる。理由として、企業や福祉施設で働くことのイメージにズレがあり、社会で求められるスキルが十分に身につけていないこともある。これらの課題を解決していくために、企業と教員・生徒が連携し、地域に根ざした教育活動を行うことができるよう計画している。

【実践内容】

○福祉科2年生

玉島信用金庫主催「頭をきたえる『はつらつ健康教室』」で連携し、学習、教室のレクリエーションを担当した。学習については、(株)公文が開発した教材を使用し、玉島信用金庫職員による学習サポーターの研修を受けた生徒が行った。レクリエーションについては授業内で研究し、活動意欲や身体機能の維持・向上を目的とした活動内容を考え、玉島信用金庫へ提案し、健康教室で実践をした。



○福祉科1年生

アダージョ(株)（いづみ荘）と連携し、施設の方から、施設の概要や利用者についての説明を受けた。また、レクリエーションの計画・実施を通して、地域での生活を主体としている高齢者への支援方法を学ぶことができた。



実践による効果等

健康教室や施設との連携を通して、企業の業務、地域に果たす役割、受講者の実態などを深く知ることができた。企業・施設と学校が連携し、共通した課題を解決する取組を通して、「地域と一体となって生徒を育てる」という学校教育の使命を達成することができた。

生徒は授業や介護実習で学んだことを活用し、レクリエーション活動を計画・実践できた。また、受講者や利用者に喜ばれたことで、自己有用感も高めることができた。今回の活動を、TVやインターネットで発信でき、多くの人に高齢者支援について知ってもらうことができた。

今後、地域で生活するさまざまな高齢者に、健康維持や介護の知識等を幅広く知ってもらえる活動をしていきたい。そのために、福祉や健康に関するパンフレットを作成し、店舗や公共施設等に設置し、配布していきたい。

※実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等（特に企業側）は各校で行った上で提出してください。）